

先行き不透明な時代の中 「創造」「実行」「苦勞・克服」の創業精神を基盤に、 ソディックの“企業変革”を進めてまいります。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々には、謹んでお見舞い申し上げます。

2020年は、設立50周年を迎える2026年までの長期経営計画「Next Stage 2026～Toward Further Growth～」の2年目の年になりました。

初年度の2019年は米中貿易摩擦の影響によって厳しいスタートとなり、2年目である今期においても世界的な新型コロナウイルス感染拡大によって厳しい事業環境となったため、2020年12月期の売上高は580億30百万円、営業利益は18億52百万円、経常利益は20億46百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は13億46百万円と前期比で減収減益となりました。3年目となる2021年はワクチン接種開始による収束への期待から、年央以降の経済回復が期待されるものの、感染症のさらなる拡大、ワクチン供給の遅れ、各国財政の圧迫等のリスクもあり、不透明感の残る中で事業運営を行っていくこととなります。

配当金につきましては、DOE 2.0%を目指す方針に基づき、2020年12月期は年間配当を25円といたしました。また、2021年12月期は1円増配の年間26円を予定しております。

■ 必要なのは意識の変革

ソディックは「創造」「実行」「苦勞・克服」という創業精神を基盤に、お客様のものづくりに貢献すべく愚直に取り組んでまいりました。

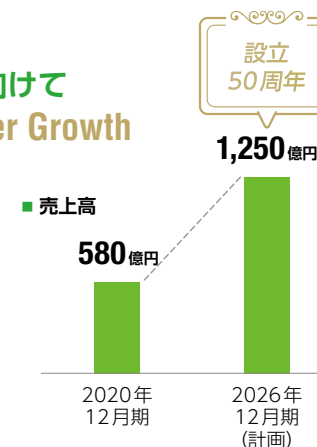
ものづくりは、これまで高精度化・微細化・小型化・軽量化・高強度化が進み、当社はそのニーズに、技術開発をもって応えてまいりました。しかしながら、デジタルトランスフォーメーションの加速や環境課題から派生したEV化、5G等の通信機器の革新、中国の躍進や新興国の急成長によるグローバル化の新潮流、SDGs等、ものづくりの在り方そのものが大きく変化してきており、また、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染拡大、各種自然災害等、予測しえなかったことも次々と発生し、将来の予測が難しい時代となりました。

最も恐れていることは、このように大きく変化している事業環境下においても、社内に「これまで成功してきたのだから、このままの道を進めば大丈夫だ」という意識が蔓延することです。当社が持続的にお客様のものづくりに貢献していくためには、これまでのビジネスの延長上で“改善”していくことは元より、方向性そのものを変える“変革”が必要な段階になったと考えています。そのため、

長期経営計画概要

将来の成長に向けて Toward Further Growth

自動車産業の変革、IoT・AI技術の進化、5Gの普及、新興国におけるものづくりの高度化をはじめ、当社を取り巻く国際的な環境の変化に柔軟に対応しながら、持続的な成長を目指します。



2020年10月に選抜された精鋭メンバーが集う変革準備室を設立しました。事業モデルや組織・経営の仕組みづくり、業界全体の動向を踏まえて製品・サービスの付加価値の見直しについて、ゼロベースで検討を進めています。目指すべきは今後めまぐるしく変わりゆく事業環境下においてサバイバル競争を生き残り、成長を続けるソディックの姿です。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

古川 健一